# 春城雜纂 十一

自傳資料

特別
14
1919
680

38Z 9444

176905

# 山田一郎贈岡山兼吉書

（前畧）蚊帳囲内孤燈ヲ挑ゲテ熟考仕候マヽ帝島子ノ身上ニ付御
参考ノ為申上候弟一身ノ事ハ暫リ高閣ニ束ネテ大言スルト御認定
アレ

## 第一　インテレクト

風流韻事ハ措之経済ハ子事ノ自ラ任スル處又哲学論理ノ如キモ十三年
十月帰京後ハ鋭鋒難当勢ニテアリシ　十三年夏中帰郷ノ節ハ実地ニ
際スト雖モ種々讀書ニ刻苦サレタル様子ナリ却テ帰京後十四年春方
ヨリ花鳥ノ趣アリシニヨリ大ニ害ヲナシタル事ト想像ス其節ノ現事ハ
余輩之ヲ喋々スルヲ屑トセス　昨夏同伴南洋御講義拝聽罷出候ニ
暫クシテ別ヲ天涯ニ惜ムヿ至ル実ハ昨夏ハ弟政治法律ノ事ニ付参考

ラ子ニ供フル為メ在京シタリシニ却テ其都合ニ至ラサリシ此儀ハ種々利害得失ノアル事ニテ別ニ言ハス　実ハ政治ノ理論并行政林法典類実地ノ記臆杯ニ至リテハ弟或ハ子ニ勝ルヤト存シ昨十月頃度々参考ト供候處冬来種々ノ方案草稿等ニハ感服ノ外ナヤリシ　本年一月小野組失敗ノ傾アリテヨリ子ノ心頗ル弛ミ否ナ家政上ニ注意ヲ信シ三菱ニ来刷職ニ陳ナリ大ニ讀書ノ妨ヲナセシハ一方ニ於テ吏務ノ実験アリタルニ拘ハラス所謂事ト存候七月演説稿ニハ実ニ感服ノ至リシ故ニ予益々歎惜ノ情ヲ起サシム　去レハ弟カ考ニテハ政治ノ議論ト行政関係杯ハ子ニ於テ実地世ニ立ツニ充分ナリト信ス之ヲ経緯スルノ論理モ充分ナラント雖氏愛ニ一欠点ハ本氣ナラサルニアリ

## 第二　イモーシヨン

氏ノ性質ハ本ト真面目ナリシ然レ共其志ス所ヲ問ハ之ヲ吟味スルト肝要也弟思フニ子漢学ノ教育ヲ受ケ chinese intrust アリト雖其受ケタル處ハ李杜護園ノ謫子ニテハアラサリシ慷慨国事ヲ談スル等ノ事ニ至リテハ或ハ欠ル山下カランヤ是レハ教育ニヨリ（ハ士族ノ遺傳ナヤリシトアランカ（山田奠南子等ト時々北墾アランカト思ハル）　然レハ如何ナル「アムビシヨン」ヲ抱カシヤ余輩ヨリ見レハ之ヲ

ヘスチレクスノデイルスフホルドナリト云ハサルヲ得ス嗚呼子重茵煖席ノ中ニ生レテ十ハヨリ之ヲ倩トセス長レテ仙海堂（子爵祖）ノ緒ヲ嗣リテ以テ終身ノ念トセリ錦衣ヲ辞シ玉食ヲ去リ慈厳ノ抑制ヲ漸々脱シ然倉伯父ニ従テ遠ク帝都ニ学ニ就ク在学七八年曉ニ紫電ヲ出テ霜ニ坐シタ窓ニ篝ヲ雪ニ讀ム一年三十有餘旬孤燈短

繁華寒生余カ如キ者ト伍シテ厭ハサルハ何ソヤ唯一ノ市島氏アル
ノミ子豈ニ此大志ヲ棄テ、僅ニ花界ニ投スル人ナランヤ　然リ而シ
前来見ル所ニテハ或ハ花界之カ妨ヲナシ一時ノ怠惰之カ害ヲナス弟
仔細ニ之レヲ見ルニ子花界ニ在リテ必シモ之ニ恥ルニアラズ時ニ domicile
ナルモ国ヨリ天性ノ懶惰ニアラズ而シテ之アルハ如何余輩ハ之ヲ決心ノ輩
国ナラサルニ帰セサルヲ憾ス

## 第三　ウサル

子ハ生平ウサルヲ以テ自ラ高フス子ハ元来心自ラ卑フス而シテ之ヲ高
リ位置スルハウサルナリ子ハ時ニ十二分ノ言ヲ吐リ而シテ之ヲ保ツニ汲
々トシ敢テ怠ルコナリ所謂十二分ヲ取ルノ説ヲ実行スルハウサルナリ
弟ハ子ノ経済ニ熱心ナルニ感シタリ子ノ文章ノ流暢ナルニ服シタリ

子ノ声望ヲ重ンスルニ sympathetic シタリ然シテ始メヨリシテ子ノウ
サルニハ餘リ服セサリシナリ何歳心卑フスルヲ言高フスルヲ又々妄リニ「
プレナル事又妄リニ断行ナルヲハ余輩ノ素行ト反スルカ故ナリ始メテ子ヲ
知悪セサリシキハ殆ト之ヲ忌ミ（真実ノ咄ナリ）已ニ之ヲ知ルニシテハ大ニ
之ヲ惜ミタリ　然リ然シ氏弟ハ子ヲ以テ素行上ノ好敵手トナシタリ
何トナレバ子ヤ断スルニ事ニシテ誤ツアリト雖ドモ又果シテ以テ人ヲ壓スル
アリ之ヲ行フニ当リテヤ直前敢往疾風ノ雷電ニ伴フカ如ク其軍
ヤ則チ雨歌ミ雲収リ碧落一洗之ヲ望メハ人ヲシテ快ト呼ハシム余ハ白
状ス北及對アルニヨリ明治九年ヨリ十二年迄子ト合スルヲ能ハサリシナ
リ十三年ノ立月初頭ヲ契リシ後モ常ニ及對ノ意見ヲ有シタリ意ノ
及セルハ同セルニ勝シリ竊ニ惟フ在校ノ人学士ノ栄ヲ帯ビ搢紳ノ地ニ立ツ

則チ所謂鮫公タラサルハ殆ント稀ナリ此際愛永ノ衆議ノ志ヲ萬年ト保タンハ子ヲ措テ誰ソヤ余ト志ヲ同フスルノ士ハ多クハ余ト素行ヲ共ニシ而シテ果ニ断ナルノ士ハ多クハ余輩ト志ヲ異ニス只一ノ桃源子アルノミト子モ此意ノ及セルハ予知ノ千ト見ヘ現ハ面晤ノ間ニ相語リタルコトアリテ弟ハ歴々之ヲ記スト子或ハ学問ノ海ニ跋渉シ或ハ香粉ノ陣ニ恥駈スルト皆リ他ノ指摘スル所ト為シタル多シト雖ニ曾テ之ヲ以テ子ノ累トナサヽリシ而シテ今ヤ北山井ル或ハ缺乏ノ裏ニアルモノ何ワヤ只タ家政ノ累アルト由ルノミ

第四　アリケビチー

庚辰ノ五月子遠リ関山ヲ辞シテ郷里ニ帰リ断然タル改革ヲ行フ金之ヲ萬世橋畔大泉楼ニ祖道シタリ発スルノ時子学事ニ方アルヲ知リ越ヘアルノ日又タ之ヲ見テ而メ之ヲ忍コテ奮然家政ノ料理ニ盡カシタリ今日ヨリ之ヲ見レハ或ハ改革セサルノ善キニ如カサリシモ知ラスト雖モ余輩之ヲ当時ニ言フ能ハス何ソ死児ノ齢ヲ数フルノ挙ヲ効サンヤ　当時ノ挙ニ於テ子ハ所謂断行ノ精神ヲ以テ熱心市島氏ノ家名ヲ保維スルニ勉メ此際所志ノ経済ノ業ヲ実地ニ施メテ経験ス其所行ノ成效ナル子ノ得意知ルヘキナリ余輩当時ニ細ニスシテ之ヲ言ヘハ当時ノ挙ハ先ツナ全ナリシト許セサルヲ得ス第四年十月帰京ノ日上毛曲ヲ奏サヽシタリ子ノ断行ニ大ニ頼ム所アルヨリ成效シタルナラン所謂経済ト云フ或ハ子始メテ事ニ当リテ非常ニ感覚シタル者ニシテ当時ノ余輩ニシテ随分共大ニ過クルヲ怨メタル事アリト雖モ兎ニ角其挙ハ失敗ニハアラサリシナリ成就シタル

ナリ　当時子ハ断言シテ曰ク人ハ一個ノ所長アレバ足レリトスル而シテ
子ハ果断以テ事ニ處シ信義以テ世ニ顯ハル、蓋シ己レノ所長ニシタリ
信ヲ以テ而シテ措置型春ヨリハ或ハ花界ノ趣意情ノ風アラント
又其原因ハ或ハ戦勝ノ餘勇ニヨルカ或ハ資力ニ恃ムト出テタルカ
知ルヿヲ得ト雖昨夏以来ハ余明カニ子ノ家政ノ為ニ思ハルヽヲ
知ルナリ然是辛子ノ「ウチ」ハ大ニ枉曲セラルヽ所トナリシヤ疑ナキ
能ハス昨夏越ヲアルノ色々感覚ヲ起シタル中ニモ実ハ竊ニ
却テ北越行ノ結果ハ弟子ヨリモ多ク得タリト思フフナキニ非ス
今春主権論ノ件又タ往来式ニ出ルヤ否ヤノ時ノ如キ弟ヨリ之ヲ
見シハ或ハ我侭ニ傾キタルノ疑ナキ能ハス而カモ多少之ヲ他ニ顕
ハシタルハ及ヒタヽ之モ遺憾ナリ実ハ往年瀾落如水ノ枕浪子ニハア

ラサルヽ似タリ弟又タ当時頗フル激ニ出テ為ニ枕浪兄徹宵ノ
苦ヲ煩ハシタリト頃キ終身ノ識道ト心得居ル事ナレ共断然ト
シテ怒リ断然トシテ歌ニ霹雳一声前後ヲ分ケリト自ラ信
スル所而兄ニ對シテハ嘗謝モ言ナラサレ共其挙ノ全体ヲ見ル
愛ニハ兄ニ後ヲ、タリシ自信心アルナリ今春来枕浪子ノ余輩
ニ詢ル或ハ雅癖ヲ付ルノ疑ナキ能ハス兄ハ多年子ノ慣手ヲ激
セラルヽナルベシ共ニ第ハ己レノ信セサル處ノ行ト違フヿハ頗フル不
快ナラサルヲ得又此等兄タウサルヤノ枕屈セシニハアラサルヤノ疑
一例ヲ設ケタルナリ　而シテ北大原因ヲ問ヘハ余ハ之ヲ家政
ノ異ニ帰セサルヲ得ス

故ニ

子ノ長スル所ハ

興家

四家ノ任務
掲名ノ術

門閥ノ威厳

壞世ノ情

至誠ノ精神

子ヲ害シタル所ハ

一 花界

二 怠慢

三 自尊心

四 家政ノ累

姉妹

右ノ如キナレハ先ツ家政ノ累ヲ除リテ緊要ナリ花界怠慢ハ一挙手シテ之ヲ改ムルヲ得ヘシ自尊心ハ他ノ行ンテレリトシノ缺乏ト共ニ徐々之ヲ改良セサル可カラス

右昨宵書シテ二時ニ至リ今曉四時半ヨリ只今ニ至リ不得止閑筆云ヘシ

九月十二日

突々迂叟

桔堂兄

桔下

# 星和泉君書

和泉君閣下不肖謹謹ンテ白ス謹今切情自ラ禁スル能ハサルモノアリ
將サニ滿腔ヲ吐露シ閣下ノ裁斷ヲ待ン謹カ一身ノ去就ヲ決セントス回
顧スルニ謹カ家山ニアルヤ時勢恰モ代謝ノ期ニ際シ新潟學校亦タ
風潮ノ鼓蕩ヲ免レス洋人ヲ聘シ教授ノ法務メテ英米式ニ模擬
セルモ所謂行ヒ走肉名実相伴ハスシテ教授ノ法其宜ヲ得ス在學二年
ノ間謹ヲシテ只ニ章句ノ間ニ漂洋セシムルノミ洋学ノ真面目何ニ在ル
ヲ覩フニ苦シメタリ且ツ新潟ノ地タル奢侈淫逸風ヲナシ紛華ヲ
飾ルノ處ニアラサルヲ以テ謹常ニ怏々トシテ此ニ安ンスル能ハス
家嚴ニ請テ輦下ニ趨学セントスル者幾回然レトモ弱冠ヲ以テ未タ
鄉閭ヲ出ルヿヲ許サレス荏苒二星霜ヲ経過ス実ニ慷慨ニ堪ヘサル

者アリ然ルニ閣下外ニハ国勢ノ赴ク所ヲ洞察シ内ニハ家運ノ萎
靡スルヲ痛歎シ謹ンデ書ヲ寄セ東都ニ赴キ学ヲ勧奨スル丁甚タ切
ナリ曰ク爾カ家ノ德望ハ乃祖岱海堂君ノ博学閎里ヲ誘掖セシ由
ル爾ノ産ハ三餘君貸殖ヲ心ヲ用ヰシノ餘澤ナリ而シテ今ヤ家運萎
靡シテ振ハス誠ニ慨スヘキノ極ナリ然ルニ爾幸ニシテ文運旺
盛ノ時ニ生レ北時ニ当テ乃祖ノ遺業ヲ継キ三餘君ノ餘風ヲ追
ハスンハ家運ノ挽回何シノ日カ期セン爾夫レ謹ムテ惰ル勿レト
謹読テ感激ニ堪ヘス東坡ノ意此ニ至ツテ愈々切ニ明治八年遂ニ
決然家山ヲ辞スルニ至リ是レ偏ニ閣下奨勵ノ然ラシムル所謹
奚ニ感荷ニ堪サルナリ而シテ後謹カ家産ヲ破フルヲ寄テハ親子ノ
情ヲ傍観スルニ忍ヒサルノ時機ナリト雖モ閣下ノ謹ヲ愛スル厚キ

謹ンテ敢テ之ニ纏章セシメス曰ク学ニ従フ者世務ニ関スル可ラスト
謹輩下ニ来リテヨリ斯ニ七葛裘書ヲ障碍ヲ学事ニカフルナク
天資魯鈍事ニ敏ナラサルヲ敢テ人ノ唯伏ヲ受ケサルニ至リタル是レ
豈ニ閣下ノ賜ナリト云ハサルヲ得ンヤ謹輩下ニ赴ムテヨリ閣下ノ
書ヲ賜フ数十回書益ニ教誡ヲ賜ハル一雞ノ一家ニ起ル毎ニ之レカ
挽回ヲ謹カ他日ニ帰ス字々誠句々血誠書ニ接シテ未タ嘗テ
感ヲ揮テ感歎セスシ心アラス謹常ニ閣下ノ書ヲ将テ恭常ノ侵
書ト為ス然ハ其ニ之レヲ重視シ而シテ懊懼ノ時ニ堅シ
展テ之レヲ讀ム未タ嘗テ壯快激奮ノ氣ヲ喚起セスンハアラサル
也嗚呼謹閣下ノ児ナル歟何ソ優遇寛容ニ托ケンカセキ者アルヤ
謹閣下ノ児ニアラサル歟何ソ教誡ヲ賜フヲ斯懇到ナルヤ閣下ハ

実ニ謹ヲ知ル已ナリ今ヤ謹一身ノ大事ヲ決セントスルニ際シ之レヲ閣下
ニ謀ラズシテ將誰レニカ求メレヤ
抑モ大學ハ天下優等ノ學生ヲ教育スルトコロニメ之ニ設クル學
科高尚ナリ之ニ聘スル講師ノ學識通博ナリ書籍器械ノ用備
亦タ至ラサルトコロナシ實ニ全國學校ノ翹楚タルニ恥チズ龍騰鳳
翥一世ヲ風靡スルノ人ヲ出ス之ニ於テセスシテ他ニアランヤ之ニアル學
生ノ榮ヤ又タ大ナリト云フヘシ加之朝廷恩詔ヲ垂レ學生ニ賦與
スルニ學位ヲ以テス學生タル者勵淬以テ聖旨ニ副ハンヿヲ急ル可
シ然レトモ謹材識庸暗ナリト雖モ幸ニ之ニ在ルノ榮ヲ有ス安ンテ班行ノ
學友ト共ニ恩賜ノ榮ヲ得ルニ孜々タルヘキナリ然リ而シテ今ヤ之レヲ
辭セントスル抑モ何ゾヤ榮スルニ學校ノ同的タルヤ其教授スル
所ノ學科如何ニ関セス人智ヲ發達シ以テ處世ノ道ヲ知ラシムルニ
外ナラサレバ苟クモ智識ヲ得ルニ汲々タルモノハ何レノ學校能ク之ヲ
達シ得ンヤヲ見サルヘカラス之レ豈ニ學校ヲ撰ムニ而已止マランヤ苟
クモ之ヲ得ルニ便宜至適ナランニハ社會ニ出テヽ實學ヲナスモ可ナリ
然レモ處世ノ法學問而已ヲ以テ足レリトスヘカラス社會ノ信憑亦タ
併セ得スンバアル可カラサルナリ苟モ社会ノ信憑ヲ得スンバ仮令其人ノ
才學アルモノト雖モ庸人ト何ゾ撰ハン世ニ處スルニ學識信憑併セ得
サルヘカラサル明シ苟クモ此二者ヲ得ヘキモノニシテ甲乙ニ比シテ便宜ツ
至適ナランニハ乙ヲ去テ甲ニ赴クヿ之レ益々知識ヲ練磨スルノ道ナリ
爲世間ノ信憑ヲ博スルノ法ナリ而メ之ニ別ヲ知ル能ハサルモノハ事
ニ迂ナルモノナリ之ヲ知テ而ヤモ為サヾルモノハ處世ノ術ニ拙ナルモノ是レ

兩ナガラ學生ノ望ムヘキ者ニ非ルナリ謹不肖ナリト雖モ處世ノ道ヲ知ラ
ント欲スルニ汲々タル決シテ他ニ讓ラス故ニ此機ヲ受ケンヿヲ恐ル、又道
ヲ切ナラサルヲ得ス然レモ他ニ轉セントスルニ智識信憑ヲ得ル便旦ツ至
遍ナルモ其多寡少ナランニハ寧ロ萬ニ安シテ猥リニ要セサルノ優
ルニ如カス而メ今ヤ謹ヲ去ラントスルモノ蓋シ他ニ轉シテ大ニ益ス
ルトコロアリト信スレバナリ之レ一身ノ為メニ國ルニ於テ而又止ヲ得サル
ノ所致ナリ

凡ソ政変ノ際乘シテ以テ一身ノ為メニ謀ル其機サナレトモ今ヤ國詔下リテ
國會開設ノ豫約アリ將サニ後來日本政事上ノ局面ニ一大変動ヲ來サ
ントス苟クモ政事上ノ思想ヲ有スルモノ之ニ注目セズメ可ナランヤ謹ヤ頓
ル意ヲ茲ニ注テ志ラス時恪ヲ前一等按査官西野梓氏政黨組成

ノ畫籌アリ謹ヲ聘シテ其事業ヲ共ニセントス據テ魏ヲ惟フニ國會
ノ開期ニ至リ代議ノ政ヲ以テ治体トスルノ時ニ於テハ各人其思想ヲ
直言廷論シテ己ノ意嚮ニ從テ政ヲ為ス固トヨリ自由ナリト雖モ各其
好ムトコロヲ徹底セントスル是レ決シテ望ムヘカラサルノナリ之レ代議為
政ノ國ニアリテハ政黨ヲ樹立セサルヘカラサル所以ニメ我國明治二十三
年國會開設ノ期ニ至テハ又之ヲ樹立シ資リヲ以テ我輩日本人民ノ
同的ヲ達セサルヘカラサルナリ之レ苟クモ政事上思想ヲ懷クモノ、其ヲサ
ル人カサルハ言ヲ待タスト雖モ謹カ一身上ヨリ觀察シ來レバ殊ニ非
常ノ関係ヲ有スルナリ抑モ謹カ從來銳意研究スルトコロハ社會ノ
學ニアレバ之ヲ實施シテ他日事ヲ成サントスル必ズヤ政治世界ニ於テ
セズンバアルヘカラズ而メ之ヲ為スヤ如何必スヤ政黨ニ頼ラスンバ能ハズ依

チ以テ能力ヲ活動セシメ依テ以テ信憑榮譽ヲ博シ依テ以テ功業ヲ
社會ニ樹ツルノ處權ガ一身ハ政黨ト共ニ浮沉セントス政黨豈ニ撰
サルベケンヤ方今爭テ政黨ヲ組成シ黨名ヲ冒スモノ既ニ一二ヲ以
テズ然レドモ到底黨名ヲ假リテ藩閥ヲ擯斥サラシメントシ党派ニ依
リテ私怨ヲ濟サントシ、巧ミニ官民ノ間ニ斡旋スルヲ主義トシ假粧以テ
人ヲ瞞着セントスルノ類ニメ所謂眞正ノ政党ナルモノヲ見ス之レ皆謹カ
事ヲ共ニシ一生ノ浮沉ヲ任スルノトコロニアラズ然リ而シテ此時ニ當リ
大ニシテハ邦家小ニシテハ一身ノ為メ眞正ノ政黨ヲ組織シ邪黨ニ
抗スルヲ尤モ急須トス謹今ノ時ニ於テ能力ノアルトコロヲ盡シテ大ニ天
下ヲ誘導シ所謂無偏無黨天下ノ眞理ヲ規矩トシ上下ノ間ニ介立
シテ其是非ヲ判シ一方ニ向テ上ノ抑壓ヲ防キ一方ニ向テ激烈ヲ制シ
公明正大俯仰天ニ愧ケサル君子ノ眞朋ヲ結ハントス庶幾ハ一生ノ
間之ニ身ヲ托シテ過ナカラン氏リ政事上ノ事タル機ニ臨シ憂ニ投
セサル可ラサルモノナレバ苟クモ目的ノ定マリタルモノ頃少ノ阻碍ニ
顧慮シテ機會ヲ失セバ或ハ一生ヲ誤ルノ虞アリ躊躇躊躇此ノ好機
ヲ失スルイアラバ却テ政理ニ暗キモノ、為メニ先鞭ヲ附セラルヽアラン
先鞭ヲ附セラルヽ而ナリ後チ或ハ己レト主義ヲ異ニスル者ニ枉
ケラレ到底己レカ目的ヲ達スルヿナケレヲ恐ルヽヨリ是レ豈ニ政理ヲ
專攻シ社會ニ實施セントスル目的ヲ懷クモノ、情ニ於テ快トスルトコ
ロナランヤ
大ニシテハ邦家ノ為メ小ニシテハ一身ノ為メニ眞正ノ政党ヲ早ク
樹立スルノ必需ナル如斯今ヤ更ニ一歩ヲ進メテ此時ヲ以テ實驗ヲ

得ルノ好機會タル所以ヲ説セン抑モ政黨ナルモノ我國未タ曾テアラサルモノニシテ始テ起ラントスルモノナレバ彼ノ西洋諸國ニ於ケル如ク之ヲ故ニ徴シ之ヲ旧ニ鑑スノ事例アルヿナク之ヲ組成スルヤ企圖者ニアリテハ實ニ至難ノ事業ト云ハサル〈カラス先ツ之カ主義ヲ立テ進路ヲ定メサル〈カラサルナリ他覺ト亂驟ヲ生ス之ニ當ル策講セサル〈カラサルナリ憲法ヲ編制シテ國會開設ノ期ニ備〈サル可ラサルナリ上下院ノ制立メサル可ラサルナリ代議士ヲ徴スノ法案考〈サル〈カラサルナリ此他財政如何外交務如何又務メ定メサル〈カラス代議為政創始ノ國ニアリテ此至難事アリ之ニ當ルモノハ才學ト異常ノ耐忍ヲ兼具スルモノニアラサレバ堂ニ得ヘキヤ然レモ此ノ多端ノ時期ニ於テ此至難事業ニ當ルハ實ニ社會ノ實當ヲ得タルトスル者ニアリテ失ス〈カラサルノ好時機ニメ此國難ニ當ルハ即チ政理ヲ研究スルモノニ本色ナリ凡ソ社會ノ學書ニ就テ學ヒ得ルヘキモノ多シ然レモ之レ單ニ政理如何ニ止マリテ實地政治ノ運轉ニ至テハ之ヲ他ニ求メサル可ラス況ヤ政黨時サニ起ラントスルノ際政派社會ノ就離合紛擾無究ノ時ニ當リテ此ノ實相ヲ觀察シ之ニ應スルノ策ヲ講スル決シテ讀書ノ能ク明ニスル所ニアラサルナリ抑モ政黨ノ革創タリ實驗ヲ得タル義ニ萬國ニ於テ稀ナリトス今ヤ我邦創始ヨリ實驗ヲ得可キノ期ニ際スル義此機ヲ失スルアル生涯ニ難得ノ經驗ヲ得サルベシ幸ニ前陳小野氏ノ策ヲ盡スル殊ニ遅ヲ延テ創業ノ要務ヲ托ス礼辭彼ニヨリ招クアル徒事奮テ之ニ應セントス即チ國ク政黨ノ根基ヲ定メ天ク同志ノ士ヲ募リ入テハ則チ謀議ニ參シ起業ニ與リ出テハ則チ應對ニ煩ラフ往復ニ忙シ此事ヤ固ヨリ容易ノ決

ニアラズト雖モ漢カ一身ノ方向ニ取リテハ甚好機回ヲ示ス疑フ容
レズ夫レ学藝ハ之ヲ施スニ處ナケレバ不無出ノ学識アリト雖モ数ハル、イ
ナレ既ニ已ノ能力ニシテ顯ハルヽノ機アルヿナリンバ信憑又随テ得ヘカラ
サルナリ然リ而シテ之ニ反シテ苟クモ機會ヲ得ルヿアラバ或ハ信憑ノ
實力ニ報ユルモノ又タナシトセス機會ノ失フヘカラサル如斯今ヤ政変際
政体漸ク我邦ニ入ラントスルノ時ニ際ス此時ニ当リテ従来学
ヒ得タルモノヲ施キ已ノ投栖ヲ社会ニ示サズンハ將タ何レノ日ヲ待テ信憑
ヲ博センヤ謹以為ク今ニメ国循據ヲ失セザル可ラサルモノア
ラン

在学一年間学ヒ得ル所固トヨリ甚タ疎ス然レ𪜈学問亦甚度アリ今ヨリ後ハ
獨学自ラ攻メ自ラ博フスルニアレハ甚在学ト否トハ多クノ差ヲ為サル初
学ノ時比ニ之ナキ能ハ待メス謹カ一身ニ就テ謀ル為スニ今ノ時ニ実務ニ従
フヲ得ル如斯ナル則チ甚利ヤ決シテ一年間大学ニ在リテ益スルトコロノ比較
ニアラズト信ス然レ𪜈今ヤ学ヲ伍ノ業ヲ抛テ大学ヲ辞セントス或ハ得喪相
償ハサルヿナカラン乎評ニ鑒ミサルベカラズ謹熟ラ学伍ノ如何ノ信憑ヲ世
上ニ有スルヤヲ繫スルニ其ヲ所モト大ナラサルニ非ト雖𪜈凡リ大学生ノ
世上ニ信憑ヲ世上ニ有スルヤヲ察スルニ目セラル、只々学問浅遠ノ點
ニ止リテ実際ニ熟達ナル點ニアラズ故ニ学伍ノ社會ニ信憑ヲ有スルハ則
チ理論家トシテ尊マル、ニアリ決シテ理論実際兼備スルモノトメ重セラル
アラサルナリ否ナ或ハ大学生ヲ目シテ軍務ニ迂闊ナリノ見解ヲ下スモ
ノアリ之レ世上ノ評ニ過キス固トヨリ意ニ介スルニ足ラズト雖𪜈信憑ナルモノ
ハ盡ク事理ニ適切ナルモノニアラズ至竟依テ以テ方便トスルニ過キサレバ彼ノ

政治経済ノ學ノ如キ実地ニ施サヽレバ其用ヲ為サヽルモノニメ此ノ評アル之ヲ
專備スルノ學生ニアリテハ大ナル障碍ト云サル（カラズ之レ理論家ヲ以テ居ラ
ントシ若シクハ食ニ官海ニ就カントシ身ヲ機廬ニ潜ムルノ資ト為サントスルモノ
ニハ妨ケサルヘシト雖モ謙カ如キ微今政変ナレト雖モ到底活働社会ニ臨
ンテ実際事ヲ企ントスル者ニアリテハ寧ロ學位ノ榮ヲ得テ障碍アランヨ
リハ學位ヲ有セズメ障碍ナカランノ優ルニ如カズ大凡ソ政事ニ臨ヤントスル
モノ其主義ヲ確定シ人ヲシテ之ヲ知ラシムル固ヨリナリト雖モ新々ニ政
壇ニ立ントスルノ際目セラレテ某思想ニ傾斜アリ某主義ヲ懷クトセラ而
メ其思想主義ノ全ク自ラ信スル所ニ反スル必スヤ大ニ妨碍トナラズンハアラ
ス潮ク所ニヨレバ政府ハ大學生ヲ目シテ急進ニ走ルモノト認視シ大ニ之ヲ
危ムノ色アリト其ノ大學ニ對スル近時ノ　ヨリ想像スレバ或ハ然ル

カノ疑ナキ能ハズ翻テ民間ノ學生ヲ視ル所ヲ観察スル、却テ之レニ
反シ彼ノ黴合ハ官海ノ風味ヲ帯ブ其教育ニ涵養セラレタル諸生ノ主
義断シテ守舊ニアル疑ヲ容レザト嗚呼進ハ政府ノ嫌忌ニ罹リ退テ社会
指斥スル所トナル其実言ノ寃ナル謙カ一片ノ丹心敢テ之ニ関スル所ニアラズト雖モ古
来寃言ノ身ヲ誤リ世ヲ害シタルモノ屈指ニ不遑彼ノ井伊閣老ヲ殺シタルモノ
ハ其心天誅ノ至誠ニ出ヲシモノナルモ尚且水藩ノ餘怒ヲ洩シタルカト怪マレ防海
ヲ策スルノ佐象山モ其国ヲ唱フルニヨリテ刺殺セラル其一身ノ寃ヲ呑ムデ斃ルハ
後世議論ノ公ヲ待ツテ瞑目スル可シト雖モ抑モ有為ノ才ヲ抱テ當路ニ居ルヲ得ス嫌
忌ノ為ニ蹉跌ヲ生スル大ハ國家ノ為メ小ハ一身ノ為メ志士ノ慨スルモ尚ホ餘リアルヿ
ナル可シ君父ノ義ヲ絶チテ孤劍仕ニ千里ニ赴キ骨肉ノ愛ヲ辞メ翰海伉ヲ十年ニ復
セントスル古謡乗史ノ喟々称スル所一々嫌忌ヲ避ルニアラサルハナシ今ヤ大學生ノ

世ニ對スル如此ノ嫌忌アリ其ノ學位ノ一般大學生ニ如何ノ效力アルヤハ措テ問ハス
活々ノ政治界ニ進入セントスル謙カ如キモノニ至テハ大ニ障碍ヲ與フルハ謙信
スル所也
凡ソ天下ニ異常ノ事ヲナサントスルモノ異常ノ所業ナカルヘカラス彼ノ學士稱
ヲ得ルモ豈ニ限ラン尋常ノ年期ヲ經過シ尋常ノ科程ヲ踐メハ乃チ可ナリ謙亦タ
尋常ノ年期ヲ經過シ尋常ノ課程ヲ經ルノ耐堪力ニ乏シキニアラズ然レトモ之レ只タ
ニ尋常ノ事ニ過ス謙才薄ナリト雖モ志大ナリ敢テ如斯ノ榮稱ニ戀トシテ
機會ヲ失フヿヲ欲ス能ワズ將サニ鋭意校ヲ脱シテ實際事ニ政党ニ從ハント
ス謙カ意已ニ斯ノ如シ今ヨリ大ニ憤勵謙カ云フトコロニ背カサランヲ勤ムヘシ
若シ謙其ニアラスメ世ニ立ツテ學士ノ為メニ侵凌セラルヽ如キヿアラハ
謙襲ヲ再ヒ閣下ニ見サルヘシ情切ニメ筆進マス意ノ足ラサルトコロ
請フ口頭ヨリ陳述セン閣下幸ニ謙カ為メニ裁スルトコロアレ謙頓首
再拜

呈和泉君書

不肖謹書再拜 面ス夫レ事谷レバ謀ルニ親疎ニ交ヲ問ハス疾痛スレバ救ヲ求ム路傍ノ人ヲ撰マサルハ人之情ナリ況ンヤ骨肉ノ縁アリ知己ノ交アル人アルニ非ラスヤ不肖今將サニ疾呼シテ衰ヲ閣下ニ請ハントスル者事実ニ谷マレバナリ謹賦性愚直機ヲ見ルニ鈍ニシテ世ニ媚フルニ拙ナリ今国刑辟ニ陷ルガ如キハ賦性ノ然ラシムル所謹国トコロ之ヲ分トス之ヲ以テ敢テ慟哭疾呼衰ヲ閣下ニ求ムルニ非サルナリ抑々謹頑鈍ナリト雖モ自信スル所ヲ守ルニ篤ク事ヲ処リ然リ故ニ敢テ不測ノ奇禍ヲ致ス謹寧ロ心之ヲ快トスルモ之ヲ恢一之ヲ慨ミノ念アラズ但タ謹父母ノ在ルアリテ早ク産ヲ破リ家ヲ失ヒ流離漂落擯斥ノ蒿アラズ一家ノ供給実ニ謹カ一身ニ在リ一日謹ナキ父母將サニ一日ノ饑アラントス然ルニ今謹生死測ラレ

サルノ獄ニ就キ數日ノ間之ヲ父母ノ耳ニ告ケシメントス前途父母ヲ
思ヘバ悲憤實ニ禁スル能ハス遂ニ闕下ニ慟哭訴フル所以ハ之ニ外
ナラサルナリ道幼時書ヲ讀ミ父母在時不遠游ノ語ヲ誦シ心深ク之
ヲ銘スル事ニ父母ニ至孝ナラントト欲セバ結髮妻ト雖トモ居ラス
ンバ能ク仰事俯養ヲ盡ス能ハス家ニ餘財アリ敢テ汁米ニ奏
上スルヲ要トサル者ハ尚ホ旦ウ幾ナラス況ンヤ其然ラサル者ニ
於テオヤ道ノ如キ父母ノ膝下ニ居ルヲ能ハス遠ク天涯ニ客居
ス既ニ已ニ不孝大ナリ然ルニ今尚ホ累ヌルニ身ヲ不測ノ危地ニ陷
サシメ父母仰望ノ資ヲ空ウセシメントス道カ不孝実ニ大ナリ然レ
ドモ竊カニ思ヘラク盡孝道一ナラズ飲食奉養膝下ニ侍スル心
慰藉スルカ如キハ寧ロ孝ノ末ナル者ニシテ其大ナル者ハ能ク

乃祖ノ遺志ヲ継キ大ニ國家ニ盡シ小家聲ヲ張ルヲアリト更ニ
人誰レカ小孝ヲ捨テ大孝ヲ欲セサル者アラン當今衣食ヲ奉
スルニ暇アラサル者何ンゾ大孝ヲ盡スヲ得ンヤ道カ如キ孰大
ヲ捨テ小ヲ得サルノ狀態ニ在テ而カモ其大ナル者ヲ棄捨セントス
抑モ是レ誰カ賜ナルカ闕下倉卒ノ廣ク道カ愚直ニシテ世ニ
媚ヒサルヲ嘉シ道ヲシテ孝ノ大ナル者ヲ致サシメントスルノ恩顧
ニ由ラズンバ豈ニ能ク然ルヲ得ンヤ道實ニ感戴ノ情ニ堪ヘズ
將サニ粉骨碎身ス可キ而シテ嘗テ功業ノ言フニ足ル者
ナリ却テ今日ノ危ヲ釀シ恩貸ヲ抑畏セズメ更ラニ闕下ヲ煩ハ
サントス道豈心犬ニ惕シサランヤ嗚呼道然ラズ將來身ヲ處
スル須ラク危機ニ觸レサランヲ勉メンカ道カ闕下ノ知遇ヲ辱

フスル者愚直世ニ晴トサルニ至リ節ヲ変スルガ如キハ閣下ノ知
遇ニ対スルノ道ニアラサルヲ奈何セン国事ニ奔走スルハ計来
ニ学ビスルト併ヒ立タス身ヲ屈シテ寧ロ小孝ヲ求ムニ安ンゼン
ヤ道閣下ノ眷顧ヲ蒙リ一家ヲ為メニ之ヲ告ケサルヲ以矣而シテ
功未タ閣下ニ報スルヲナシ今ニシテ身ヲ屈スル閣下ノ高
意ヲ水泡ニ帰スルヲ奈何センヤ嗚呼道義ニ由ラントスレバ父
母ヲシテ饑餓ニ陥セシメントス父母ヲ奉養セントスレバ主我ニ背
ク而シテ道何ヤ獄ニ就ク義ニ背ク父母ヲ奉養セントスルモ得
サルニ際シ道ヲ身体実ニ若ル痛哭疾呼閣下ノ救ヲ請フ外
アラサルナリ若シ夫レ供給ニ至テハ僅カニ衣食ニシレバ即チ足
レリ敢テ人カニ乞ヘタルノ恩惠ヲ冀フニアラサルナリ閣下若シ

之ヲ察ルサバ道亦タ敢テ快々獄ニ就カス盤根錯節ハ偶
ミ道カ精神ヲ揮輝シ時来高意ヲ空シフセサラシムル如
スモ閣下幸ニ乗清セヨ道感慨胸ヲ塞キ筆ニ意ノ如
ソナラズ敬礼ヲ欠クノ語多シ冀クハ寛恕セヨ大審院ノ宣告
ヲ待テ道去留ヲ辞セン

以下全て
白紙